

美空電撃引退



149回場所の賜杯を受ける美空富士最後の優勝の場所になった。

横綱美空富士は先場所「負けがこんだら進退を考える」と師匠の桐壺親方が大きな決意で臨んだが、7番勝って「これはまだ行ける」と今場所を迎えた。

初日は鹿富士に左を差されて何もできずに寄り切られたが、二日目は魁電に対して左からの攻めで寄り切って1勝1敗とした。「魁電戦に敗れたら引退表明させよう！」と桐壺親方は考えていたらしい。ところが、勝ってしまったため、そのタイミングを逸してしまっ

そのような心中の中、三日目に月山に寄り切りで敗れるや、取組後に引退を表明した。

美空富士は、124回に序の口で初土俵を踏み、128回に幕下昇進、130回に新十両に昇進し8勝3敗で十兩優勝、133回に新入幕を果たすと前頭十三枚目で全勝優勝し三賞を独占。

翌場所には早くも小結に昇進。次の場所には関脇に昇進し、関脇2場所目の1勝1敗で2回目の優勝を飾り、137回に大関に昇進。



美空富●(寄り切り)○月山



美空富○(寄り切り)●魁電

141回に4回目の優勝を飾り、42回に第24代横綱に昇進し、2代目虎の富士を襲名するも、この場所、5勝4敗2休と初土俵以来、初めて勝ち越しを逸した。

翌143回場所に四股名を戻して5回目、146回に6回目、148回に7回目(3度目の全勝優勝)149回に初の連覇で8回目の優勝を飾った。

幕内成績173勝64敗16休、通算成績204勝76敗16休、幕内優勝8回(歴代5位)、うち全勝優勝3回(歴代2位タイ)、殊勲賞2回、敢闘賞1回、技能賞3回、十兩優勝1回。

昭和の時代にはあったものの、平成以降、負け越し知らずで横綱昇進を果たしたのは美空富士ただ一人。勝負強べたかったとの花の9回優勝と肩を並べた見事だった。

しかも、その内の全勝優勝3回は平成の大横綱と言われた英ですらできなかった回数。全盛期の相撲では、相手に相撲を取らせない速攻相撲で、見ている親方衆も思わず「強い！」と口に出るほどだった。

晩年は糖尿病を患って痩せ細り、それでも勝つことへの執念を燃やして稽古に励み変幻自在のまるで忍者のような相撲で勝ち越しを続けたが、桐壺親方も今の身体で横綱を張らせるのは忍びないとの思いから今回の電撃引退に至ったようだ。

「美空富士関、お疲れ様でした！」

美空富士関談
「自分の相撲が取れなくなり、引退することになりました。ここ1年は、勝間田親方(元横綱鞍ノ城)に通っていたが、胸をかりて新しい相撲を目指し、調整を続けておりました。横綱は負けたら引退と思っておりましたが、騙し騙し土俵に上がっておりまして。しかし、体力、気力の限界を感じ、決断を下した次第です。」

今後は、年寄姫川として、弟子の育成、協会のために全力を尽くしてまいります。短い間でしたが、ご声援いただきありがとうございます。御座いました。」

桐壺親方談
「大変お疲れ様でした。当たり前です

が、誰よりも間近で稽古を見てきました。足、手を、いや、身体をすり減らす命もすり減らす事になってしま、私の指導者としての至らなさを痛感しています。弟子として何ひとつ言うことのないお相撲さんでした。」

春ノ翔関談
「大将、お疲れ様でした。背中を追いかけ、追い越す事が目標でした。今後その目標を目指し、自分の相撲を磨いていきます。」



先場所は若ノ嶋らしい出足が見られず、相手に差される相撲が目立ち、途中休場した若ノ嶋は場所前に関取衆との申し合いを重ね、稽古十分で今場所に臨んだ。

初日は初顔の喜乃郷戦。喜乃郷は差し身が合いに今場所の調子を占うに立合いに押し込んだ若ノ嶋だったが、喜乃郷は左を差され絶命。しかし、依伝いに土俵を回ってこれを残すと、一転して攻勢に出た喜乃郷を押し倒した。「いやー！危なかったけど、何とか勝つなあ！」と安堵の表情の錦風親方。



若ノ嶋○(押し倒し)●喜乃郷

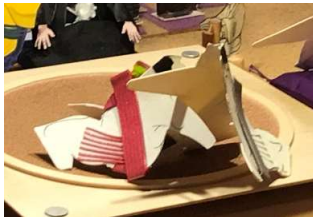
二日目は鹿富士との対戦。「横綱には申し訳ないけど、勝ちちゃうような気がするんだよな〜！」と鹿賀乃戸親方。鹿富士には先場所負けていて嫌な

相手を。相撲は鹿賀乃戸親方が言うとおり、左を差した鹿富士が終始攻勢に出て若ノ嶋を寄り切りに破った。

「勝つような予感でしたが、勝っちゃったよ〜！」と喜ぶ鹿賀乃戸親方。「この1敗はしようがない。気持ちを切替える！」と若ノ嶋に檄を飛ばす錦風親方だった。

密かに優勝を狙う大関千代鈴は何もしくなくとも体重が増えていくとのことだが体調は万全。初日は鬼ヶ嶽に危なげない大関相撲で好発進した。ところが、二日目に初顔の喜乃郷にまさかの左を差され寄り切られ、痛い黒

星を喫した。三日目は佐賀ノ海戦。佐賀の引きに落ちる相撲の心配があったが、早い相撲で無難に勝って春日根親方を安心させた。



千代鈴○(寄り切り)●佐賀海

連覇を狙う大関大神楽は、初日こそ英笹を危なげない相撲で白星発進したが、二日目に佐賀ノ海にまさかの上手投げに敗れると、三日目に鬼ヶ嶽に引落しに敗れて1勝2敗となり、優勝するには苦しいスタートとなった。



鬼ヶ嶽○(引き落し)●大神楽



若ノ嶋○(押し倒し)●魁電



千代鈴●(寄り切り)○喜乃郷